

第24回 八代地域審議会会議録

開催日時	平成25年3月27日(水) 10:00~11:30
開催場所	八代市役所 5階 大会議室A

■ 出席委員

会長	徳田 武治	委員	岡山 誠		
副会長	山中 タミ子	〃	古閑 啓子		
委員	稲村 芳文	〃	西尾 静子		
〃	大林 凌	〃	宮田 康治		

■ 欠席委員

委員	西濱 昭則	委員	濱 大八郎	委員	濱田 律子
----	-------	----	-------	----	-------

■ 市出席者

役職	氏名	役職	氏名
企画戦略部長	永原 辰秋	財政課財政係長	吉永 千寿
企画政策課課長	丸山 智子	市民活動支援課	井戸 康雄
企画政策課企画係長	相澤 誠	住民自治推進係長	
企画政策課主任	坂本 友和		

■ その他の出席

役職	氏名	役職	氏名

■ 傍聴者

一般傍聴者	0名	報道機関	0名
-------	----	------	----

■ 協議事項

<報告事項>

- (1) 八代市総合計画後期基本計画について(企画政策課)
【資料1-1、1-2】
- (2) 平成25年度当初予算について(財政課) 【資料2】
- (3) 住民自治の進捗状況について(市民活動支援課)【資料3】

■議事録

1. 開会

<事務局>

出席委員8名で、委員の2分の1以上の出席を得ており、地域審議会の設置に関する事項の第7条第3項により、本日の審議会が成立することを報告。

2. 挨拶

徳田会長挨拶

3. 議題

■報告事項

(1) 八代市総合計画後期基本計画について

～事務局（企画政策課）より報告～

委員

資料1-2 No. 3について、これまでの自然環境保護という立場から転換できないかということを行っているのだが、林業経営をされている方々は、シカ、イノシシ、サルの被害に非常に困っていらっしゃる。自然と親しみましょうという取り組みと、有害鳥獣対策が矛盾するよう感じる。若い世代も含め、今自然環境がこのように変わってきていて、全員で取り組まなければならないという啓発活動を関係者が連携して、具体的に何を八代市としてやっていくか、課を越えて検討して欲しい。

坂本地区や泉地域など、上流が荒れると、川も海も汚れるという観点から、自然環境に対する行政の立場を転換できないか。

事務局（企画政策課）

守るべき自然と、有害で対策が必要な自然というものがあるので、どちらかに偏ることなくバランスをとって進めていく必要がある。有害鳥獣対策は水産林務、環境保全は環境部署で行っているが、全庁的な認識も必要なので、いただいた意見を担当課へもつなぎたい。

委員

資料1-2で意見に対する市の考え方が示されているが、今後5年間で政策を進めていく中で、少しずつ見直しを行っていくのか。

事務局

5年間の基本方針として総合計画をとりまとめているが、実際の事業は毎年見直しをしながら実施計画に基づき進めていく。その都度必要な課題に対応しながら変化していく。

委員

基本目標の2に「郷土を拓く人を育むまち」とあるが、実際地元の企業に就職をしてくれる子が1割いるかいないかである。

会社のブランド、給与等を考えるとどうしても県外の会社に就職していくのが

現状。進学する子どもも、ほとんど県外に出て行っている。

職があったら市内にいたいという人も多い。未来を担う人づくりの前に人が住まなくなるのではないか。年々人口が減少している中で、定住化を推し進める計画が何かないか。

企画戦略部長

住んでいただく工夫が大事なことで、市に受け皿がないため外に出て行っているのが現状であろう。これまで市は企業誘致に力を入れていたが、今からは同時に地場産業の育成にも力を入れて取り組んでいかなければならない。

また、県が県南振興としてフードバレー構想を打ち出しているが、八代市も積極的に参画したいと考えており、例えば農業を中心とした6次産業化による雇用の創出などを進めるために庁内のプロジェクトも立ち上げた。

定住という言葉はこれまでの総合計画になく、後期計画に新たに盛り込んだ。定住についてどこの自治体も取り組んでいるが、八代市は少し遅れている。いろいろな施策を定住という見方で展開していくため、こちらも庁内プロジェクトをつくっており、八代のいいところを外にアピールしながら、八代に来てもらい、住んでもらうということの後期基本計画で取り組んでいきたい。行政だけでできることではないので、民間の皆様と一緒に進めていけたらと思っている。

委員

定住という言葉をもっと市民に喚起していくために、総合計画のわかりやすいところに出していくべき。どこに載っているのか。

企画戦略部長

「定住」そのものが施策の柱となるべきところだが、後期基本計画ということで、基本構想の括りのなかで策定しなければならず、どこに盛り込むかが非常に難しかった。

なので、「安全で快適に暮らせるまち」という括りの中に盛り込んでいるが、少しわかりにくいのが現実。子育て環境や住環境整備などいろいろな事業が「定住」として捉えることができる。そのような市の施策を集めて、「定住」という括りで情報発信していきたいと思っている。

(2) 平成25年度当初予算について

～事務局（財政課）より説明～

委員

4月1日から法律が変わり60歳を越えても雇用しないといけないということだが、人件費はどうなるのか。

企画戦略部長

法律の改正はあったが、25年度から即変わるわけではなく、八代市は60歳定年制である。現在は、嘱託職員として再度採用することはあるが、将来的には国などの動向を見ながら市も検討していくことになる。

市町村合併後、職員数を減らしているが、地方分権というところで仕事は逆に増えており、職員が不足しているので、臨時職員を雇いながら事務事業を行っている状況。人件費を落としながらどう仕事をこなしていくのか、これから議論していく。

また、行政がすべてサービスを行うのではなく、民間でできるものは民間に任せるとも考えていく。上天草市が窓口を民間委託し経費削減した事例もあるので、アウトソーシングも考えながら経費削減に取り組んでいきたい。

委員

扶助費などが増えていく中で、一般会計予算が1%増となっているが、特別会計を含めた予算はどうなっているのか。

事務局（財政課）

一般会計、特別会計、企業会計の合計で、約911億。前年度実績が約917億円なので、約6億減少している。内訳は、特別会計で約9億円の減、企業会計で約1億5千万円の減となり、一般会計が約5億円の増となっているので、合計で約6億円の減となる。

委員

自主財源と依存財源どのくらいの割合が理想なのか。

事務局（財政課）

自主財源が多いほうが望ましいが、税収が確保できる自治体には交付税が減ることになるため、どれくらいのバランスが理想かは難しい。今後交付税の減額も見込まれるため、できるだけ自主財源を確保するよう努力しなければならないと思っている。

企画戦略部長

現在の市の財政状況は健全であるが、合併時の財政シミュレーションでは将来赤字団体になるということで、経費削減に努めているところ。決して楽ではないということをご理解いただきたい。

（3）住民自治の進捗状況について

～事務局（市民活動支援課）より説明～

※資料訂正：植柳校区 平成25年3月19日→平成25年5月頃に延期

委員

先行地域の5校区は、住民自治の交付金の中で運営されているのか。

事務局（市民活動支援課）

そのとおりである。市の一括交付金の中で地域独自のまちづくり活動が行われている。

委員

今回立ち上げる9校区については設立されてから、来年度から交付金が入るのか。

事務局（市民活動支援課）

25年度から一括して交付金が交付される。

会 長

交付金については、分別収集と敬老会で使ってしまうので、自由に使うことができないのが現状。

事務局（市民活動支援課）

現在、地域協議会に新たな財源を確保する手法を検討しているので、しばらくお待ちいただきたい。

委 員

敬老会は77歳以上が対象だが、敬老者の人数に関係なく市の予算は2,000万円と聞いているが。

事務局（市民活動支援課）

市の予算2,000万を77歳以上の人口で割って各校区に配分している。

委 員

敬老者が増加すれば一人当たりの補助額が減ってくる。これまでは不足する分を町内からいただいていたがそのような財源はどうなるのか。

会 長

現在、市からの補助金は970円くらいだったと思うが、それでは足りないので、1世帯あたり200円とか500円とか、町内で異なるが負担いただいている。

事務局（市民活動支援課）

市の補助金は974円で配分しているが、これでは予算が足りないので町内で負担していただいているのが現状。住民自治の中で、対象年齢等は自由に設定していただけるので、地域独自で予算に応じた運営をしていただければと思う。

委 員

各校区で金が足りなければ自分たちで稼げということか。

会 長

校区で新たな取り組みをする場合は自分たちで財源を確保しなければならない。ひとつの会社と位置づけて、住民が楽しい、住んでよかったまちづくりになるかどうかということになる。

資源ごみの回収などで財源を確保したらどうかという話をするが、八代市は裕福な方が多いので、そのようなことをするくらいならお金を出し合ったほうがよいと言われる。八代は裕福で住みやすいからこそ、危機感がなく旧態依然としているのかなと思う。

委 員

水島では7～8年ほど前から資源ごみの回収を始めて100万円貯めることができ、研修所（公民館）を建替える際に非常に役に立った。みんなで目的を共有すれば続けることができると思う。

4. その他

委員

すばらしい総合計画ができたが、バランス感覚が大事かなと思う。どれか一方を進めても、どれかができなければ『やすらぎと活力にみちた魅力かがやく元気都市“やつしろ”』を達成することはできない。このバランス感覚は私たちにはわからないので、市がどのように取り組んでいくかが一番重要。この目的に近づくよう今後もご尽力いただきたい。

企画戦略部長

※委員任期満了に伴う謝辞

5. 閉会